

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成22年3月4日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4071101358
法人名	医療法人 聖和会
事業所名	日佐 宅老所
所在地 (電話番号)	福岡市南区の場2-31-21 (電話) 092-501-4111
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成22年1月23日

## 【情報提供票より】(平成21年12月16日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 11月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	14 人 常勤 13人, 非常勤 1人, 常勤換算 13人

### (2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築
建物構造	木造	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円又は45,000円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	有( 円)	<input checked="" type="radio"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有( 100,000 円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,380 円		

### (4) 利用者の概要(平成22年12月16日現在)

利用者人数	18 名	男性 0 名	女性 18 名
要介護1	6 名	要介護2	4 名
要介護3	6 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	1 名
年齢	平均 86.5 歳	最低 74 歳	最高 98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	南折立病院、倉光病院、前田歯科
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

神社や田んぼが近くにある住宅地の中にグループホームがあり、すぐそばを都市高速道路が走っているが車の騒音はほとんど聞こえないのどかな雰囲気環境である。事業所の母体は医療法人で、ホームの前に老人保健施設がある。他に老人ホームなど関連事業所を運営している。ホームの利用者のほとんどは関連施設から移ってきた方であるため地域との関係が希薄な場合が多く、ホームの理念を実践に移すことで、地域との交流に力を注いでいる。今後の活動に期待が持てるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で改善課題であった運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。また、多機能性を活かした支援、同業者との交流は取り組み改善されており、災害対策は夜間を想定して取り組み改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は自己評価及び外部評価の意義を理解している。自己評価は職員全員が関わって作成されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。参加者は、町内会長、民生委員、包括支援センター、他事業所(小規模多機能)、家族、利用者、職員である。評価の報告、利用者状況、事故報告、避難訓練等の報告を行なっている。民生委員から、「火災訓練時は地域住民に声かけを行ってほしい」との申し入れがあったこともある。会議での意見や助言をサービス向上に活かす取り組みをしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族からの意見苦情等は見られない。また母体が病院の為、何かあれば直ちに入院できる体制にあるので、家族は安心を感じている。家族とホームの信頼関係は構築されている。毎月の「日佐だより」は家族から好評である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	ホーム近くの神社で行われている「夏越し祭り、どんど焼き」に参加を行い、また町内の行事や公民館での催し物、近所の田植え稲刈り、小学校の運動会など地域活動に参加し、地元の人々との交流に努めている。

## 2. 調査結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域住民との交流や家庭的な環境の中で自分らしく生活できるよう支援させていただきます」と、地域密着型サービスの意義や役割を踏まえ、事業所独自の理念としてつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、朝礼時に理念の唱和を行なっている。職員一人ひとりが理念を理解し、家庭的な環境を崩さず自分らしく生活できるよう、ホームづくりに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム近くの神社で行われている「夏越し祭り、どんど焼き」に参加を行い、また町内の行事や公民館での催し物、近所の田植え稲刈り、小学校の運動会など地域活動に参加し、地元の人々との交流を行なっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び職員は自己評価及び外部評価の意義を理解している。自己評価は職員全員が関わって作成されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。参加者は、町内会長、民生委員、包括支援センター、他事業所(小規模多機能)、家族、利用者、職員である。評価の報告、利用者状況、事故報告、避難訓練等の報告を行なっている。民生委員から、「火災訓練時は地域住民に声かけを行ってほしい」との申し入れがあったこともある。会議での意見や助言をサービス向上に活かす取り組みをしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の更新時には市に対して事故報告を行なっている。また、困難事例の際は相談したり、助言を受けたりしやすい関係にある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を必要とする人は今のところいない。職員は権利擁護に関する外部研修に参加し、参加できない職員には伝達講習を行っているため、全職員が理解している。必要な人には支援が行なえる準備が出来ている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月利用者の暮らしぶりや写真等を載せた「日佐だより」を発行し郵送している。一人ひとりに健康状態、金銭管理、職員の異動等の手紙を同封している。家族の訪問時にも近況を報告し健康状態を伝えている。金銭預かりは数名であるが、報告の上確認印をもらっている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ユニットごとに意見箱を設置しているが、苦情等はない。年一回家族会を開催しており、家族から「散歩をしてほしい、笑顔が増えた、ドリルがよい」等の意見ももらった。受けた意見は運営に反映させる取り組みを行っている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動離職は「日佐だより」にて家族へ報告している。利用者に対しては、職員の異動離職を伝えることが不安に繋がりがねないとの配慮から、知らせていない。また、2ユニット間の異動は行われるが、夜間は両ユニットで1名体制であり、馴染みの関係が築かれているので、異動によるダメージは見られない。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、性別年齢等を理由に採用から排除していない。家庭的な雰囲気を大切にし利用者者に尊厳を持って関わられる職員を望んでおり、一人ひとりが得意分野や能力を活かし勤務できる体制がとられている。職員の社会参加のための休日取得にも配慮されている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部研修による人権教育を行っている。今後も利用者への人権を尊重するために、人権教育啓発活動に取り組むようにしている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員の自主参加としている。内部研修は当番制をとっており、研修当番にあたった職員がテーマを決め、講師として毎月研修を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの交流を行っている。グループホームのミニコンサートに参加したり勉強会を行ったりして職員間で交流している。また、他ホームにも運営推進会議に参加してもらい、お互い同業者としてサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	関連施設からの入所希望がほとんどであるため、事前に施設に面会に行き顔なじみの関係を作っている。また、自宅からの入居希望の場合は、見学や日帰り体験をしてもらい、ホームに事前に馴染んでもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者からは人生の先輩として踊りや編み物、お手玉づくりなど多くのことを学ぶことが多く「綱渡りは練習したら出来るけど、人生は簡単に綱渡りはできないよ」と教えられたこともある。また些細な事でも「いつもありがとう」と言われ、感謝の気持ちの大切さや癒される事が多い。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から思いや意向を聴き、また利用者と共に過ごす中で日ごろの声かけにて希望や意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3か月に1度のケアプラン会議で、全職員参加してのケアについての話し合いを行い、本人や家族の要望を聞いて介護計画を作成している。また、市町村から、状態に変化のない方については6か月に1度の見直しでよいとの指導があり、それに則した介護計画となっている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1度のモニタリングを行い、介護計画の見直しをしている。また、状態が変化したときはその都度、状態を見直し現状に即した新たな介護計画を作成出来るようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じ、歩いて行ける範囲でお花見など楽しんでいる。入院時は、お見舞いや洗濯の支援などしている。また、かかりつけ医への通院は基本的に家族付き添いとなっているが、都合によっては職員が付き添い支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人母体が医療法人ということもあり、入居と同時に家族からの希望でホームの協力医に変更される利用者が多いが、かかりつけ医の希望の方には受診の支援をしている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化した場合の対応指針及び同意書にて家族の意向を確認し、現在は病院にての治療となっている。今後、終末期にあたってホームで見てほしいとの希望があれば対応していきたいと考えている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に一人ひとりの人格を尊重し、声かけ・更衣・排泄時にはプライバシーを損ねることのないよう配慮している。個人情報等の書類については、ホーム入り口の書棚に関係者以外の目に触れないよう取扱いに注意を払っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるが、利用者の希望次第では、散歩や買い物に行ったり、回転寿司に食事に行ったりして、職員の体制が許す限り利用者のペースを大切に支援している。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者がテーブル拭きや盛り付けを手伝いながら、昼食の用意がされていた。室内には、静かな音楽が流れ心地よい空間で職員も一緒に食事を摂っている。声かけが必要な利用者には、自然に、さり気無い支援がされている。穏やかな団欒のひと時を感じられる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、火曜日・金曜日が入浴日となっているが、希望があればいつでも入浴出来るようになっている。入浴の拒否が有れば、タイミングや声かけを工夫しながら支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理の下ごしらえや掃除、洗濯物を干したり、たたんだりと一人ひとりの力を活かし共に過ごせるよう支援している。春には、パンジーやチューリップなど花を植えたり、チンゲン菜・パセリ・二十日大根・レタスなど沢山の野菜を植え、家庭菜園を楽しみ気晴らしの支援としている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に買い物や散歩に出かけている。散歩コースも出来るだけ偏らないように心がけ、色々な発見しながら会話出来るように工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員が鍵をかけることの弊害を理解しており、玄関は自由に出入りが出来るようになっている。居室の窓も鍵をかけておらず開放感がある。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を行い、消防署の立会いのもと利用者と共に訓練を実施し、夜間想定訓練もしている。身近な災害については出前講座を利用して知識を深め、乾パン・水などの備蓄も用意されている。民生委員から地域の協力を得られるよう働きかけをしてもらっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士が献立を立て、毎日の食事摂取量をチェックし一人ひとりの栄養状態を把握している。必要な利用者には水分摂取量のチェックも行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の入り口のプランターには季節の花が植えられる。その傍にはベンチが置かれいつでも休憩できるようになっている。明るい居間には、料理の香りや一緒に調理をする姿を見る事ができ、食卓やソファに思い思いに過ごせるようになっている。利用者の写真や花が飾られ、静かな音楽を聴きながら利用者と職員が楽しく会話をしながら穏やかな時間が流れ居心地よく過ごせる工夫がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームにはベットと小型の家具が用意されているが、使い慣れた馴染みのものを持ち込み、本人が居心地良く過ごせるよう努めている。家族の写真やお気に入りの人形が飾られ、その人らしい居室づくりを工夫している。		